2010.4.16「鳩山政権５つの大罪」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

鳩山内閣の支持率が、各社の調査で 3 割を大きく下回り、いよいよ鳩山政権が末期の様相を呈してきました。この７ヶ月間の鳩山政権の迷走ぶりを振り返ると、鳩山政権には少なくとも五つの大罪があると私は思います。

まず一つ目は、安全保障政策の問題です。国の根幹で、最も重要な政策を、選挙の手段にしてしまった。日本国民の安全保障に関わる日米安全保障条約や普天間問題、これらを選挙の中で、実現性を全く考えずに、沖縄からの国外移設をマニフェストに掲げるとはでたらめの極致です。彼らにとっては、安全保障政策でさえも、選挙の手段でしかなかったということなのでしょう。

二つ目は、同じくマニフェストで謳われている、財源の担保無きばらまき政策であります。財源が全くない中、全てを借金で賄う形で本年度から子ども手当が実施されました。この政策が今後も続けば、国の財政は破綻をきたすわけで、まさに財源なきばらまき政策といえます。

三つ目は、ダブルスタンダード、二枚舌、二重基準の問題です。彼らは野党時代と与党時代で、全く違う発言をし、それを全く恥じることもありません。これは政治家にとってあってはならないことですが、こうしたことが日常茶飯事になっています。それが国民の政治に対する信頼感を大きく損なっているという現実を、鳩山総理をはじめ民主党の議員はどのように考えているのでしょうか。

四つ目は、鳩山総理をはじめ、全ての民主党議員に象徴される「言葉の軽さ」です。政治家にとって最も大切なものは、自らが発言する言葉です。その言葉によって国民が政治家を信頼し、その言葉が国民を動かし、政治を作っていくのです。しかし、彼らの言葉というのは上滑りなものばかりです。「命を守りたい」と鳩山総理は言いますが、一体誰の命を守っているのでしょう。私は、自らの政権の命を守るためだけに政治が利用されているとしか思えません。この言葉の軽さは致命的であります。

最後に５つ目は、政治とカネの問題です。総理大臣と幹事長が、何億、何十億にも上る政治とカネの問題で国民の疑惑を受けながら、一切責任を取らず、説明責任も果たさなかった。これは、鳩山内閣の姿勢を象徴していると思います。

とりあえず五つの問題点を挙げてみましたが、これらに共通するのは、鳩山内閣の幼稚さです。幼稚でモラルや道議がない方が政権を担うと、このような事態に陥ってしまう。このことをまざまざと私達に見せつけているのです。この内閣を、1 日も早く倒すことが、日本の国益を守ることだという思いで、これから後半の国会、全力で鳩山内閣を倒すために我々もがんばっていきます。

皆様方のご支援、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。